



爽やかな五月の青空が広がる
気持ちの良い季節になりました



キャバレー生活 そのII

キャバレーの仕事はお客様の所に注文のあった品物を（ビールや飲み物、オードブル等）を運ぶわけですが、混んでくるといかにスピーディーに運ぶかが問われます。あまり急いで銀盆から落としてグラスやビールを壊してしまつては何もなりません。

物でした。特にハワイアンは私にとつて新鮮でポールが魅力的で覚えて自分でも歌つて見たくなりました。（数年後にハワイアンバンドを作りポールで歌う事になります）

しかし、私は初日からバンド演奏が気になって、と言うか音楽が好きで私にとつて生のバンドの演奏はとても魅力的で、目はテーブルに行つていますが、耳はバンド演奏にどうしても行かざるを得ませんでした。何せ日本で優秀なバンドですので、フルバンドもハワイアンバンドもとても聴き逃さない

仕事はきつい時もありますが、そうした楽しみもあり、続けていけるように感じていました。ボーイ仲間二人、おねい”がいて、少し気持ち悪かったので、ある日疲れて寮で寝ているところをその一人に襲われて、びっくりして逃げ出した事が今では笑い話ですね。

3ヶ月過ぎた頃、2人のボーイ仲間と「小岩」という所にアパートを借りる事になりました。錦糸町から3駅ほど千葉寄りに行つた所の、六畳一間で小さな

台所がありトイレは共同、風呂は銭湯でした。それでも東京に来て初めての自分たちの城を持ったわけです。大家さんが一階で部屋をしていて、その二階を借りたのですが、大家さんの所に二人の娘さんがいて、床屋をお父さんと一緒にしていました。その長女が私の友達の一人に惚れて養子に来てくれないかと言う話があったりして（私には何もありませんでした）、面白かったことを思い出します。

台所があまり狭いのでホステスを探すが、絶対数が足りないという状況で、お客さんに謝つて待つて頂くしかなく一番困ることにすね。それから客同士の喧嘩、ホステス同士の喧嘩、これもあります。ホステスを俺のところへ寄せよという喧嘩、お客を取った取らないといったホステス同士の喧嘩、店の中で起きるので困ったことです。そこは主任の腕の見せ所です。ボーイも走り回ります。

そんなこんなで一夜が過ぎて行きますが、楽しんで帰つて行くお客さんもあるわけで、それだけが救いですね。

さて夏がやってきた頃、店の従業員の慰労のための旅行がありました。熱海の一泊旅行です。男30人ほど、ホステス150人ほどがバスで熱海に行きました。

これがまた大変！ 着

いてすぐに風呂に入る事になったのですが、脱衣場は男と女は別々でしたのでパツと脱いで浴槽に入つたところ、ホステスが裸でいっぱい入つていて、「こつちにおいで洗つてあげるから」とか、「痩せてるね」とかキャツ、キャツと騒ぎ立てられてビックリ。混浴だったので。多勢に無勢、恥ずかしい思いですぐに出てしまいました。

宴会が始まり飲むほどに酔うほどに時間が過ぎて行くと、あちこちでホステスの酔っぱらいが出現してきて、普段は接客する方ですが今夜は男どもが接客係を受け持つわけですから、日頃の鬱憤を醉に任せて発散し始めました。浴衣を脱いで上半身裸で騒ぎ出す人や、普段仲の悪い者同士がつかみ合いの喧嘩を始めるやら、まるで修羅場と化して行きま

私は思わず、「南無阿弥陀」と唱え仲裁に入りましたが、殴られませんでした。もう嫌になる程あんなにあの人が変わるのかとビックリし、これが人間の真の姿かもしれないと念仏を唱えながら止めに入っていました。しかし、翌朝はみんなケロとした顔でバスに乗ったのは流石が年季の入ったホステスだなあと感心しました。酔った勢い「かごちゃんかわいいね」と誰か言ってくれるかと思っていました。私がモテるようになるのは、この後銀座に出てからです。(本当かなあ・・・！)
続きは次回の号で・・・

籠谷 弘

「会員 趣味のホームページ」より その3

「白ばら園」 奥村文代

去年の9月に夫を膀胱癌で亡くしてから、寂しい一人暮らしに戸惑いながら、何もする気力も無くなりました。

そんなある日、新聞で歌声喫茶の事を知り、すがり付きたい思いで入会させて頂きました。音痴な私ですが皆様と一緒に歌っている現実を忘れる事ができて幸せな気分になります。大声で和やかに歌える日が楽しみです。宜しくお願いいたします。

白いノート

白いノートが 欲しいのよ
心の内を 書きたいの
書いて荷物を 降ろしたら
幸せ色の さわやかな
目覚めの朝が 待っている

白いノートを もらったら
やっぱり余白 残します
みんな使うと 不安なの
いつでも想い 埋められる
自由なページ 欲しいから
白いノートは 不思議なの
過ぎたあの日の 悲しみに
こぼす涙を ペンが消す
欲しいものはと 聞かれたら
白いノートと 答えます

「あじさい川柳」 藤本花枝

うかうかと生きて名前に詫びている
進まぬ食 胃がおちよぼ口するゆえに
袖すり合えば死神かとも思ったり

「コスモス短歌」 石田禎子

ひらひらと小さき蝶がたずね
きて何のご用か安らぎくれて
いつもより輝く満月見上げて
はつい手を合わせ祈りし我は

「ひまわり畑」

「ひまわり短歌」 光木和子

何事も思い通りにやいかぬわ
い 檸檬かじって眉ねを寄せる

七十の手習いでピアノ叩く指
おぼつかねども出す音愉し

おかしいなこの歳になってな
んだらう やりたいことが次々
生まれる

「ひまわり俳句」 山口佳寿子

雷鳴に急かされ帰る春の雨
春休みカッパで遊ぶ菜種梅雨

「ひまわり川柳」 堀秀章

没イチは 会うこと出来ず 今
は我慢
こんな時 横のつながり 大切
に
掲示板 いつか出来たとき 語り合う

「チューリップ畑」 宮川敬子

ハウスもの 彼女の好物 スイカ
なり

還暦に 彼女が逝った 哀しけり
共感トークの 没イチ仲間

掲示板の設置

「没イチ掲示板」を設置しましたので、皆さん、投稿頂きますようお願いいたします。没イチの会・京都のホームページに掲示板へのリンクを置きました。ご覧下さい。

ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都
住所：京都市西京区大原野東境谷町1丁目1番地4-701
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328
MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。